

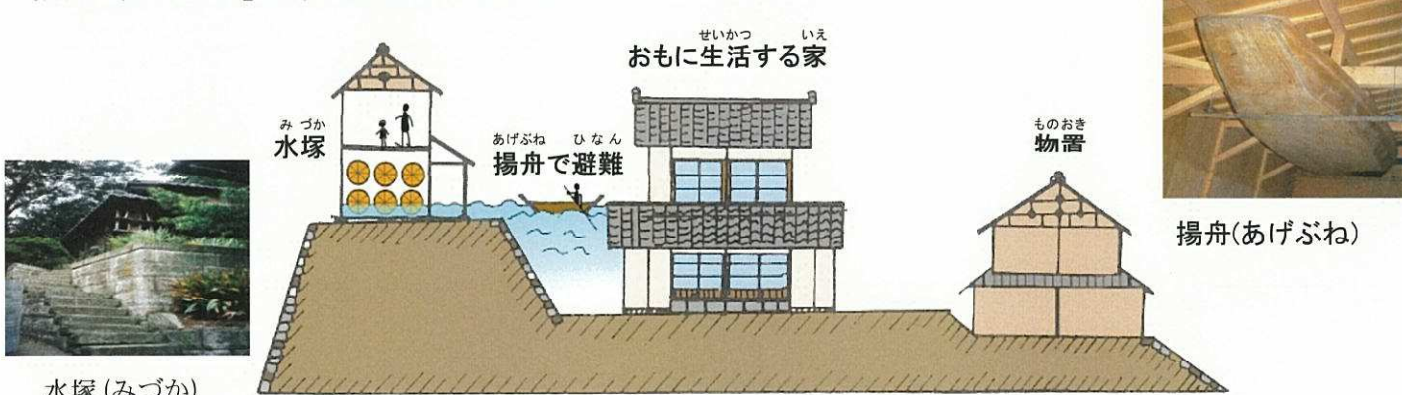
谷中村の昔・今

遊水地になる前、そこに遊水地の約1/3を占める谷中村があり人々が生活していました。洪水被害が起こりやすい地域でしたが、村人は周囲に堤を築き農業、養蚕業、漁業などを営み生活していました。

明治39年には、渡良瀬遊水地計画のため用地買収が始まり、谷中村は藤岡町(現栃木市)に合併され、谷中村は廃村になりました。



谷中村やその周辺地域では、明治時代に入り、ほぼ毎年のように洪水に襲われていました。水害常習地帯の低平地での水との長い闘いの歴史の中で、人々は、水害から人命、家畜、食料などを守るため、屋敷の庭より3~5mの土盛りをした上に水塚(みづか)と呼ばれる蔵などの建物を作りまし



遊水地内には、今でも旧谷中村の人々が生活していた跡、高く盛り土した施設の跡(役場跡、雷電神社跡、延命院跡)が残っています。



遊水地の自然環境を守る

遊水地の自然環境を守るため、毎年、ヨシ焼きにより木や枯葉が焼かれ、日当たりを良くし植物の成長のお手伝いをしています。



わたらせゆうすいちたんけん 渡良瀬遊水地探検ブック

わたらせゆうすいち やくわり 渡良瀬遊水地の役割は?

[治水] 大雨の時に川の水の一部を調節池に貯め、利根川へたくさんの水が一度に流れないようにし、下流の水害を防ぐ。 渡良瀬遊水地内に3つの調節池をつくり、洪水時には、一部低くした堤防(越流堤)から調節池に水が入るようにしました。



越流堤からの流入状況



洪水時の渡良瀬遊水地

[利水] ハート型の貯水池(谷中湖)に水を貯め、飲み水やお風呂、洗濯などみんなが利用する水を確保します。

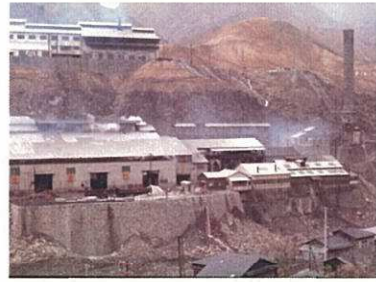


山にあるダムからでは2日もかかってしまう..

渡良瀬遊水地は水を集める面積も大きく、水を必要とする都市へも近いため、その日のうち(約5時間)に水を届けられる。



# なぜ遊水地を作ることになったのか？



あしおどうざん しょうす  
足尾銅山の様子

あしおどうざん めいじ はい あた どう う ばしよ はっけん  
足尾銅山は、明治に入り新しい銅の埋まった場所も発見され、  
どうせいざん きゆう ふ  
銅生産は急に増えました。



あしお やま  
足尾の山

ともな やま か じ はいえん しょくぶつ  
それに伴い、山火事・排煙で植物  
そだ はやま となつた山は  
みず す やま ふ あめ  
水を吸わなくなり、山に降った雨の  
なが はや  
流れが速くなりました。



わたらせがわ みず たはた  
渡良瀬川の水があふれ、田畑  
かわ つち しょうす  
に川の土がたまつた様子

おおあめ としき みず で はや じゅうきんぞく ふく たいりょう どしや  
大雨の時には水の出が速く、重金属を含んだ大量の土砂  
のうち なが ご のうさくぶつ ひがいで  
が農地などに流れ込み、農作物への被害が出ました。

のうさくぶつ ひがいで ひろ わたらせがわ こうずい はんらん ともな  
農作物への被害の広がりは渡良瀬川の洪水の氾濫に伴うものであり、その洪水対策の一つ  
わたらせがわ こうじ ゆうすいちか こうじ けいかく しゅうい ていぼう きず ゆうすいち  
として、渡良瀬川の工事と遊水地化の工事が計画され、周囲に堤防を築いて遊水地としました。



わたらせがわ ゆうすいちか こうじ しょうす  
渡良瀬川・遊水地化の工事の様子



ゆうすいち  
遊水地とは？

こうずい としき かわ みず りゆうにゆう いちじてき た かわ みず りょう ちようせつ とち  
洪水の時に川の水を流入させて、一時的に貯め、川の水の量を調節する土地。

## たなか しょうぞう 田中 正造

わたらせがわ さかな のうさくぶつ おお ひがいで あた  
渡良瀬川の魚や農作物に大きな被害を与えてきた足尾  
どうざん こうどくもんだい こっかい と あ わたらせがわぞい ひとびと  
銅山の鉱毒問題を国会で取り上げ、渡良瀬川沿いの人々  
すく どりょく じんぶつ たなかしょうぞう しょうぞう とちぎ  
を救うため努力した人物が田中正造です。正造は、栃木  
しんぶん げん しもつけしんぶん へんしゅうちよう へ けんかいぎいん しゅうぎいん ぎ  
新聞(現:下野新聞)へ編集長を経て、県会議員・衆議院議  
いん こっかい あしおどうざん こうどくもんだい とく  
員となり、国会で足尾銅山の鉱毒問題に取り組みました。

ぎいんじしよくご こうどくもんだい すいがい かいけつ ゆうすい  
議員辞職後は、鉱毒問題と水害を解決するための遊水  
ち けいかく ひとびと いっしょ はんたいりうどう お そんみん  
地計画について、人々と一緒に反対運動を起し、村民と  
むら まも たたか さい しょうがい と  
ともに村を守るために闘い、73歳の生涯を閉じました。



とちぎ しふじおかまち しんかいばしわき  
栃木市藤岡町(新開橋脇)

# カスリーン台風と渡良瀬遊水地の調節池化

しょうわ ねん カスリーン たいふう せんごさいだい たいふう と ね  
昭和22年のカスリーン台風は、戦後最大の台風で利根  
がわ わたらせがわ かんとうぜんいき じんたい ひがいで  
川、渡良瀬川など関東全域に甚大な被害をもたらしました。  
かんとうちほう では、1,100名の死者が、渡良瀬川でも 750名の死  
しゃ で だいひがいで  
者が出るなど大被害となりました。



なん どうでカスリーン台風って呼ぶの？



せんご せんりょうか じき たいふう ぐうぐん さだ  
戦後、アメリカ占領下の時期、台風をアメリカ空軍が定めた  
じよせい なまえ よ  
女性の名前で呼んでいました。



わたらせゆうすいち あしおこうどくじけん けいき わたらせがわ こうずい  
渡良瀬遊水地は、足尾鉱毒事件を契機に渡良瀬川の洪水  
たいさく ひと けいかく めいじ ねん しゅうい ていぼう あかせん  
対策の一つとして計画され、明治45年から周囲の堤防(赤線:  
しゅういてい きず ゆうすいち  
周囲堤)を築いて遊水地としました。その後、カスリーン台風  
おお こうずい はっせい とく ふ ゆうすいち  
などの大きな洪水が発生したことを踏まえて、遊水地をより効  
りつてき かつよう しょうわ ねん ゆうすいちない ていぼう きいせん い  
率的に活用するため、昭和38年に遊水地内に堤防(黄線:囲  
ぎよう堤)を築く調節池化事業に着手し、昭和45年に第1調節  
ち しょうわ ねん だい ちようせつち へいせい ねん だい ちようせつち かんせい  
池、昭和47年に第2調節池、平成9年に第3調節池が完成  
しました。

しょうわ ねん だい ちようせつちない の みず かくほ  
また、昭和51年に第1調節池内に飲み水の確保を  
もくてき ちようすいちかじぎよう あおせん ちやくしゅ へいせい ねん  
目的とした、貯水池化事業(青線)に着手し、平成2年  
がいせい りょう はじ  
に概成し利用が始まりました。



い 囲ぎよう堤



えつりゆうてい 越流堤

しゅういてい 周囲堤  
い 囲ぎよう堤

い 囲ぎよう堤とは、調節池とす  
ゆうすいちない かく  
るため、遊水地内を囲って作  
ていぼう  
る堤防

えつりゆうてい みず たか  
越流堤とは、水がある高さ  
いじょう  
以上になったら、遊水地に  
みず はい しょうすいち  
水が入るように周囲より一  
ぶ ひく ていぼう  
部低くした堤防

